

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	0770401453		
法人名	医療法人 翔 洋 会		
事業所名	グループホーム 泉なごみの家（Aユニット 1階）		
所在地	福島県いわき市泉町滝尻字六枚内49番地3		
自己評価作成日	平成25年7月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

精神面・健康面に十分な観察をし、一日一日を大切に共に楽しく暮らせるように全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人母体が医療法人であり、利用者の健康管理、疾病の早期発見、早期治療、緊急時のオンコール体制などスムーズな医療支援を受けられる体制がある。
2. 地域密着型サービス事業所として、祭り、美化運動、忘年会など地域行事に参加したり、保育所との交流、法人が地域の医療、介護関係職員勉強会を主催するなど地域との連携、交流に積極的に取り組んでいる。
3. 職員が明るく、家庭的な雰囲気を利用者の自立を目指した取り組みをしており、家族も事業所の行事に協力的で信頼も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を携帯し、朝の申し送りで復唱し意識を高め実践につなげている。	職員が理念を常時携帯し、ミーティングで全員で復唱したり、会議で具体的に確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、駐車場の確保等あらゆる面で便宜を図って頂いて地域住民との交流を図っている。 また、忘年会にも参加させてもらっている。	地域の美化運動や、祭り、忘年会などの地域行事に参加したり、利用者の散歩、買い物、保育所との交流を通し日常的に地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してグループホームを理解してもらい電話相談や見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	様々な行事の報告や現在の状況の中での課題について相談し、意見交換など行いサービスの向上に活かしている。	定期的に行われ、事業所の概況、行事、感染症や熱中症などの健康管理、地域行事などについて意見交換し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行き来する機会は少ないが、電話などで情報交換や相談等をし協力関係を築くよう努めている。また、運営推進会議に参加される地域包括支援センター職員との情報や意見交換を行っている。	市の担当者から入所者の退去、関係法規の改定などの指導を受け、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について常に考え話し合いをもち、拘束をよぎなくされる場合についても本人の生命と苦痛を最小限にするよう取り組んでいる。	管理者や職員相互に身体拘束排除の検討を行い、家族と事故のリスクについて話し合うなど、玄関の施錠を含め身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、日常的に話し合い、全員が理解し浸透・遵守されるよう意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に制度の理解を図り、必要な人には市町村と連携を取り支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき、わかりやすく説明し急変時や病院受診などについても安心を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者・家族とコミュニケーションを図り意見・要望を傾聴し運営に反映している。又、意見箱を設置している。	利用者、家族が意見、要望を出しやすいよう努め、把握できた要望などについては迅速に対応し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時に意見を聞いたり話し合いをもち、出された意見は運営に反映させている。	管理者は随時職員と個別面談し、職員一人ひとりの課題の把握に努めるとともに、会議等で出された職員の意見や提案を検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務状況に合わせ処遇改善を図り、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や経験年数に合わせて研修に参加したり、日常的に指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時、他GHとの意見交換をし、他を知る事で質の向上や仕事の見直しをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の家族からの情報と実調により不安・要望・課題を把握し安心を得るよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・要望を傾聴し、一緒に支援していけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの時間を設け、何が必要なのか面談の中から見極め、速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、尊厳を守り協働しながら支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族それぞれの役割を持って絆を一番と考え、情報交換をしながら共に支援していくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との協力を得ながら、友人との連絡や面会を促し、関係が途切れない様支援している。	希望する理髪、美容院を利用したり、買い物、知人との面会、家族との墓参りなど馴染みの人や関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者との場面や環境をつくり、孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報交換をし、その後の生活の相談を受けたりするなどのフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位と考え、日々の中で希望・意向を把握するよう努め、必要に応じて家族を交えながら検討している。	利用者、家族の一人ひとりの思いや意向を把握し、できるだけその人らしく生活できるよう、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人より生活歴や環境などプライバシーに配慮しつつ、情報を十分に得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神的・身体的状態を把握すると同時に能力の現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状態の課題を全員で意見交換(アセスメント)し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ日々のケアの中で把握した利用者の身体状況や気づき、医師の意見などをもとに、現状に即した介護計画を作成し、その実施記録やモニタリングも適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事・水分量などを個別に記録しており、言動の変化なども記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟に対応できるよう職員は、当法人グループの協力を得るなどし、様々なニーズに対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団と連携をとったり、ボランティアの受け入れをするなど、協働し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、定期的な受診状態に合わせ通院を行い、主治医との情報交換を密にしている。	事業所の協力医の他、本人、家族が希望する医療機関での受診ができ、通院介助は事業所と家族が協力し合って行うこととしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や気づいた事などの情報を共有し、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症状態などの情報を提供し、安心して治療を受けられるよう又、早期退院ができるよう協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対しては、家族・主治医と十分な話し合いをし、職員も含めて方針を共有するなど、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできることと、できないことを利用開始時、家族などに説明をし理解を得て、職員及び主治医など関係者が協力し合い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで、応急手当やチームケアをもって行うよう定期的に話し合い実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回昼・夜間を想定し、年1回は消防署立会いで避難訓練を行っている。	火災や地震などを想定した防災訓練を計画的に実施している。また、毛布や懐中電灯などの防災グッズ、缶詰や飲料水などの非常食を備えている。	防災マニュアルを全職員に周知するとともに、風水害などを想定した訓練も実施して欲しい。併せて、地域住民の協力体制についても、運営推進会議などで協力を呼びかけて欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けなど、プライバシーを損ねないように大声で声掛けしないなど、様々な場面で配慮し、一人ひとりの人格・誇りを大切にしている。	誇りやプライバシーを損ねない話し掛けや言葉遣い、トイレ誘導へのさりげない声掛けなどに努めている。また、個人情報などは責任ある管理を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい環境・場面をつくり、自己決定できるよう働きかけている。言葉に出来ない時には思いを察したりするなど選択してもらうよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース・ライフスタイルを重視し可能な限り、希望にそって支援するよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に清潔で、本人がおしゃれをして気分が高まるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に下準備をしたり、食事をしたり、食を大切に、楽しい時間となるよう取り組んでいる。	簡単な野菜の下処理や、後片付け、茶碗拭きなど、食事に関連した一連の作業を利用者とともにやっている。また、季節感を味わうため旬の食材を取り入れたり、地元のレストランで会食するなどして、食への関心を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせ食事内容を検討し、食事量・水分量は毎回チェックし栄養の確保に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活かし、声掛け誘導し、可能な限りトイレ排泄を支援し、失敗を最小限にするよう取り組んでいる。	出来るだけトイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っており、オムツ使用からポータブルトイレで排泄し、紙パンツから布パンツに改善した利用者もいる。また、羞恥心への配慮やプライドを損ねない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動を促したり、オリゴ糖などで調整しスムーズに排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度や個々の希望にそえるよう支援している。	入浴は1日置きを基本として、希望があれば夜間入浴などの支援も行っている。また、入浴が楽しめるようゆったりとした時間を取り、ゆず湯や菖蒲湯なども取り入れ、リラックスした時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握したり加齢に伴う体力に合わせて休息を促し、室温・照明にも配慮して安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・副作用に対して職員全員が把握するよう努め、症状の変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の充実を図る為、その人の状態に合わせて作業などを選択し能力を発揮できる場面をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって買い物や散歩に出かけたり、家族の協力を得て外出等を支援している。	近隣の散歩、買い物、ドライブを兼ねた外食、地元の祭り見物や紅葉狩りなど、多くの家族の協力を得ながら、希望に添った外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ってる安心・大切さを十分に理解しており、自販機で買い物をしたり近くのスーパーへ買い物に出かけたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話をかけたりしている。必要に応じて支援している。 又、プライバシーにも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる光や音などに配慮し、季節の花を飾ったりして居心地の良い環境づくりに努めている。	社員寮を改築された建物である事から、食堂や廊下などの共用空間が広く取られ、明るく清掃が行き届いており清潔感がある。また、各所に行事写真や利用者の作品、観葉植物、長いす、自動販売機などがあり、利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやベンチを設置し、自由に過ごしたり談笑したりできる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使っていたなじみの家具や、寝具を持ち込んで頂き、利用者と家族とで相談しながら配置をきめており、安心して暮らせる環境づくりに努めている。	ベッド、テレビ、冷蔵庫、家族写真などの馴染みの物を持ち込んだり、自分の作品を飾るなどして、その人らしく暮らせる環境作りに努めており、生活感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事・わかる事を見極め生活の継続を図れるよう取り組んでいる。		